カ・ドーロのロッジア，15世紀

ARCHITECT'S GUIDE TO VENICE

建築ガイド 4

ヴェネツィア

陣内　秀信
陣内　美子　共訳
ANTONIO SALVADORI

丸善株式会社

ARCHITECT'S GUIDE
TO
VENICE

by
Antonio Salvadori

Copyright © 1990 by Renzo Salvadori
Originally published in English by Butterworth-Heinemann Ltd., 88 Kingsway, London WC2B 6AB, England.
All rights reserved.

© 1992 by Maruzen Co., Ltd. Authorized Japanese translation of the English edition under the agreement with Butterworth-Heinemann Ltd.
本書は Butterworth-Heinemann 社から翻訳許可を得たものである.

目　次

地図 7
序文 9
はじめに 11
都市の景観 19
参考文献 20
トルチェッロ島とヴェネツィアの起源 22
1 サンタ・マリア・アッスンタ大聖堂，トルチェッロ島 23
2 サンタ・フォスカ教会，トルチェッロ島 24
3 サン・ドナート教会，ムラノ島 25
4 サン・マルコ寺院 26
5 サン・ジャコメート（サン・ジャコモ）教会，リアルト地区 28
6 サン・ニコロ・デイ・メンディコリ教会 29
7 サンタポローニア修道院回廊 29
8 サン・ジャコモ・ダローリオ教会 30

ヴェネツィアの住宅 31
9 カ・ロレダンとカ・ファルセッティ 31
10 カ・ダ・モスト 32
11 アルベルゴ（旅館）・デル・サルヴァーデゴ 32
12 天国の橋のたもとの小パラッツォ 33
13 サンタ・マルゲリータ広場の小パラッツォ 33

ヴェネツィアのゴシック様式 34
14 サンタ・マリア・グロリオーザ・デイ・フラーリ教会 34
15 サンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ教会 36
16 サント・ステーファノ教会と修道院回廊 38
17 マドンナ・デロールト教会と修道院回廊 39
18 サンテレナ教会と修道院回廊 40
19 サン・ジョヴァンニ・イン・ブラーゴラ教会 41
20 サン・グレゴリオ教会と大修道院 42
21 サンタルヴィーゼ教会 42
22 ミゼリコルディア教会と大修道院とスクオーラ・ヴェッキア 43
23 総督宮殿（パラッツォ・ドゥカーレ） 44
24 パラッツォ・アリアーニ・ミノット 46
25 カ・フォスカリとパラッツォ・ジュスティニアン 46
26 カ・ドーロ 47
27 パラッツォ・フォルトゥニー 48
28 ゴルドーニの家 48
29 パラッツォ・ジョヴァネッリ 49
30 パラッツォ・ピザーニ・モレッタ 49
31 サンタンジェロ広場 50

ヴェネツィアのルネサンス様式 51
32 アルセナーレの玄関 51
33 ボーヴォロ階段 52
34 パラッツォ・ダーリオ 52
35 サンタ・マリア・デイ・ミラーコリ教会 53
36 サン・ジオッベ教会 54
37 パラッツォ・グッソーニ 55
38 パラッツォ・マリピエロ・トレヴィザン 55

マウロ・コドゥッチ 56
39 スクオーラ・ディ・サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ 56
40 スクオーラ・ディ・サン・マルコ 57
41 サン・ミケーレ教会 58
42 サン・ザッカリーア教会 59
43 サン・ジョヴァンニ・グリゾストモ教会 60
44 サンタ・マリア・フォルモーザ教会 61
45 旧行政館と時計塔 61
46 パラッツォ・ゾルツィ 62
47 パラッツォ・コルネール・スピネッリ 62
48 カ・ヴェンドラミン・カレルジ 63

16世紀初期の建築 64
49 サン・ジョルジョ・マッジョーレ島：修道院宿舎と月桂樹の回廊 65
50 総督宮殿（パラッツォ・ドゥカーレ） 66
51 サン・サルヴァドール教会 68
52 サン・ファンティン教会 69
53 パラッツォ・デイ・カメルレンギ 69
54 フォンダコ・デイ・テデスキ（ドイツ人商館） 70
55 スクオーラ・ディ・サン・ロッコ 71
56 リアルトの役所 72
57 サン・ジョルジョ・デイ・グレーチ教会 73

ヤコポ・サンソヴィーノ 74

58 カ・コルネール 74
59 スクオーラ・デッラ・ミゼリコルディア 75
60 サン・フランチェスコ・デッラ・ヴィーニャ教会 76
61 図書館，造幣局，ロッジェッタ 77

ミケーレ・サンミケーリ 79
62 サンタンドレア要塞 79
63 パラッツォ・コルネール・モチェニーゴ 80
64 パラッツォ・グリマーニ 81

アンドレア・パラーディオ 82
65 カリタ修道院 82
66 サン・ジョルジョ・マッジョーレ 84
67 レデントーレ教会 86
68 ジテッレ教会 87
69 サン・ピエトロ・ディ・カステッロ教会 88
70 牢獄とため息の橋 88
71 リアルト橋 89
72 パラッツォ・バルビ 90
73 新行政館 90
74 サン・セバスティアーノ教会 91

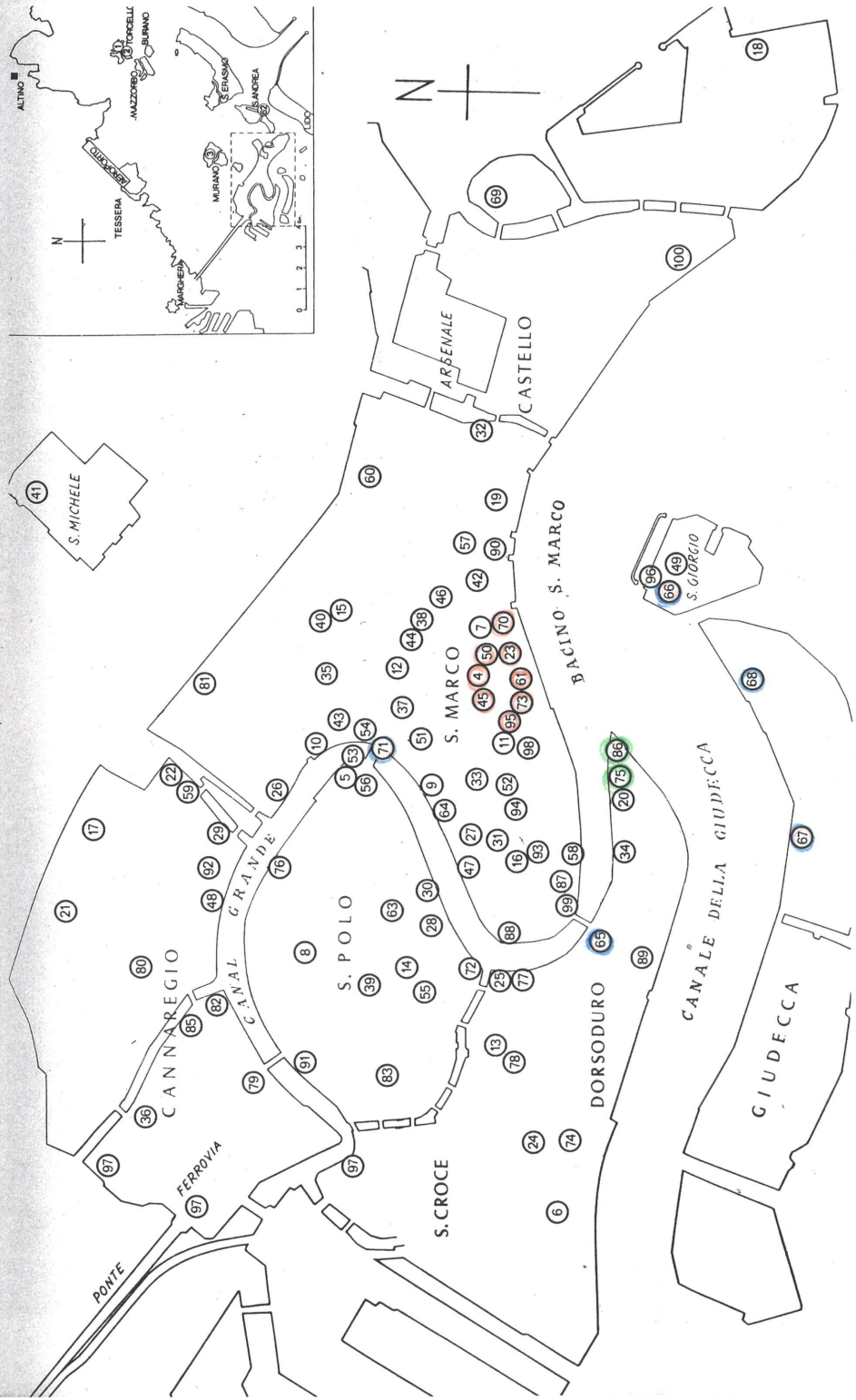
バルダサーレ・ロンゲーナとバロック様式 92
75 サルーテ教会 92
76 カ・ペーザロ 94
77 カ・レッツォーニコ 95
78 スクオーラ・デイ・カルミニ 96
79 跣足派教会 96
80 ゲットーのシナゴーグ 97
81 イエズス会教会 98
82 パラッツォ・ラビア 98
83 トレンティーニ教会 99
84 サンタ・マリア・デル・ソッコルソ教会 99
85 パラッツォ・プリウリ・マンフリン 100
86 税関の岬 101
87 パラッツォ・ピザーニ 102

18世紀とジョルジョ・マッサーリ 103
88 パラッツォ・グラッシ 103
89 聖ジラルモ会（ジェズアーティ）教会 104
90 ピエタ教会 105

新古典主義様式と19世紀 106
91 サン・シメオーネ・エ・ジュダ教会 106
92 マッダレーナ教会 107
93 サン・マウリーツィオ教会 107
94 フェニーチェ劇場 108
95 ナポレオン翼 109
96 サン・マルコ広場沖の，19世紀前半における新古典主義の作品 110
97 19世紀の橋頭堡 111
98 サリッザーダ・サン・モイゼの建物 112
99 パラッツォ・カヴァッリ・フランケッティ 112

近代建築 113
100 ビエンナーレ会場のパビリオン 113
101 ゴンドラ 115

その他の見るべき建物 117
索引 121



カルロ・スカルパ，オリヴェッティのショールーム，サン・マルコ広場，1958年

序文

バターワース社のこの建築ガイドシリーズは建築家と建築に興味を持つ人々すべてにとって，各都市の100以上の建物の，歴史の要約やガイドとなることを意図している．このガイドブックは可能な限りの歴史的説明を加えてあり，旅行案内書とは違い建築的な詳細を徹底的に記述し，広範囲の切り口を含むだけでなく，どの場合も現在に至るまでの20世紀建築についても扱っていく．さらに，このガイドは各都市を特徴づける重要なデザイン要素を，それも建物だけでなく，都市におけるメタファーが記述されている．ヴェネツィアでは，当然，ゴンドラをその優美さとデザインの面からとりあげている．

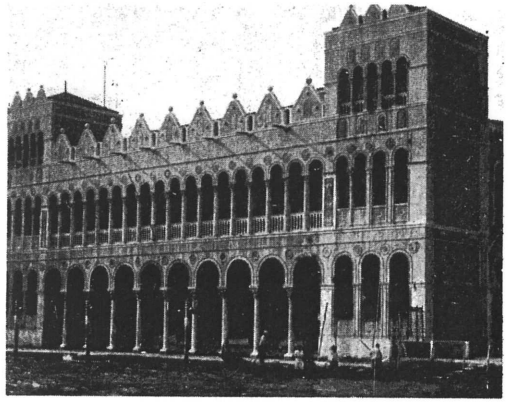
20世紀後半に，都市計画と都市デザインはあらゆる都市にとってきわめて重要な主題である．各都市は，関係する問題や解決する方法のみならず，その都市特有の歴史にもとづく解決方法を示している．都市は単に建物の集合ではなく，それぞれ固有の特別な環境を備えており，この環境はしばしば都市を作りあげている個々の建物より貴重で，もろいものである．

ヴェネツィアは「生きている」博物館として残っているが，現在ヨーロッパの都市に広がっている工業大気汚染による絶え間ない破壊のみならず，その美ゆえに，20世紀の観光の波にさらされている．このガイドブックではもっとも有名なすべてのモニュメントを紹介し，ヴェネツィアの建築全体の発展の概略を，特に重要な建築と時期を重要視することによって，明確にすることに努めた．

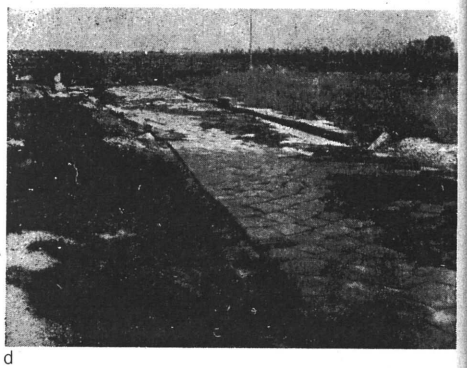
最後に，ヴェネツィアという都市には，画家や彫刻家の多くの作品を所蔵している建物があるが，これらの作品は建築の最も不可欠な要素として考えられている．特に，より重要な作品については図版を入れ，言及することにも注意を払った．

a

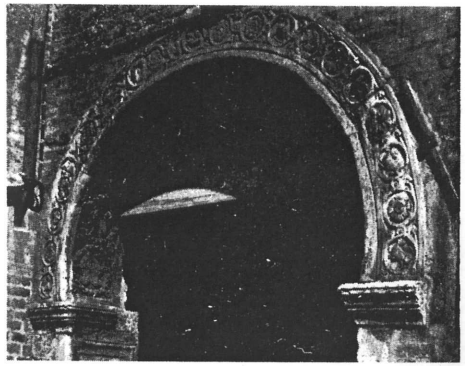
b



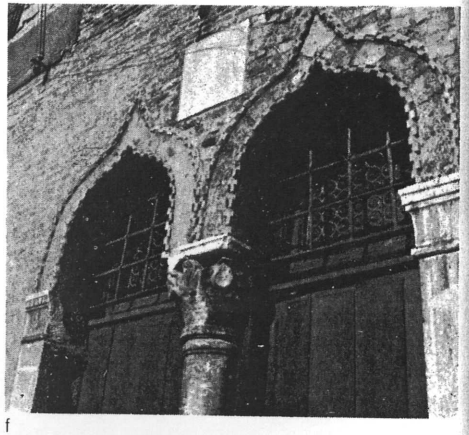
c



d



e



f

a）ラヴェンナ．サンタポリナーレ・イン・クラッセ教会，6世紀．鐘楼，9－10世紀
b）テッセラ（ヴェネツィア）．小教会と鐘楼，11世紀
c）フォンダコ・デイ・トゥルキ．13世紀のファサードの構成（19世紀におおがかりに修復・再構成された）はアルティーノのローマ時代のヴィッラを想起させる．ビザンチン様式の影響を受けたロッジアとアーチ．
d）アルティーノ（ヴェネツィア）．ローマ時代の道路
e）コルテ・デル・ミリオン．イスラム起源の馬蹄形のアーチ（11－13世紀）
f）コルテ・デル・レメール．ビザンチンとイスラムの二重の影響を示す尖頭状の足の長いアーチ（13世紀）

はじめに

ヴェネツィア建築の特徴は，この地方の伝統や独特の環境，ヴェネツィアが出会ったいろいろな文明に由来する．この地方の伝統はまずローマ時代の建設の経験に基づき，ラグーナに形成された．ヴェネト公国の最初の核を成す人々は，蛮族の侵入から逃れてパドヴァ，オデルツォ，アクイレイア，そして特に一番近いアルティーノなどのローマ都市からやってきた．

たとえば，ヴェネツィアの住宅の外観は，アルティーノに多く見られるローマ時代のヴァカンス用ヴィッラを反映している（ベッティーニ，Bettini）．ヴェネト公国は少なくとも初期にはラヴェンナ総督の行政区に属していたので，ラヴェンナ地方の伝統も，ヴェネツィア地方の伝統と見なすことができる．事実，後にヴェネツィアで発展したトルッチェッロ島の宗教建築とモザイク装飾は，ラヴェンナに始まっている．

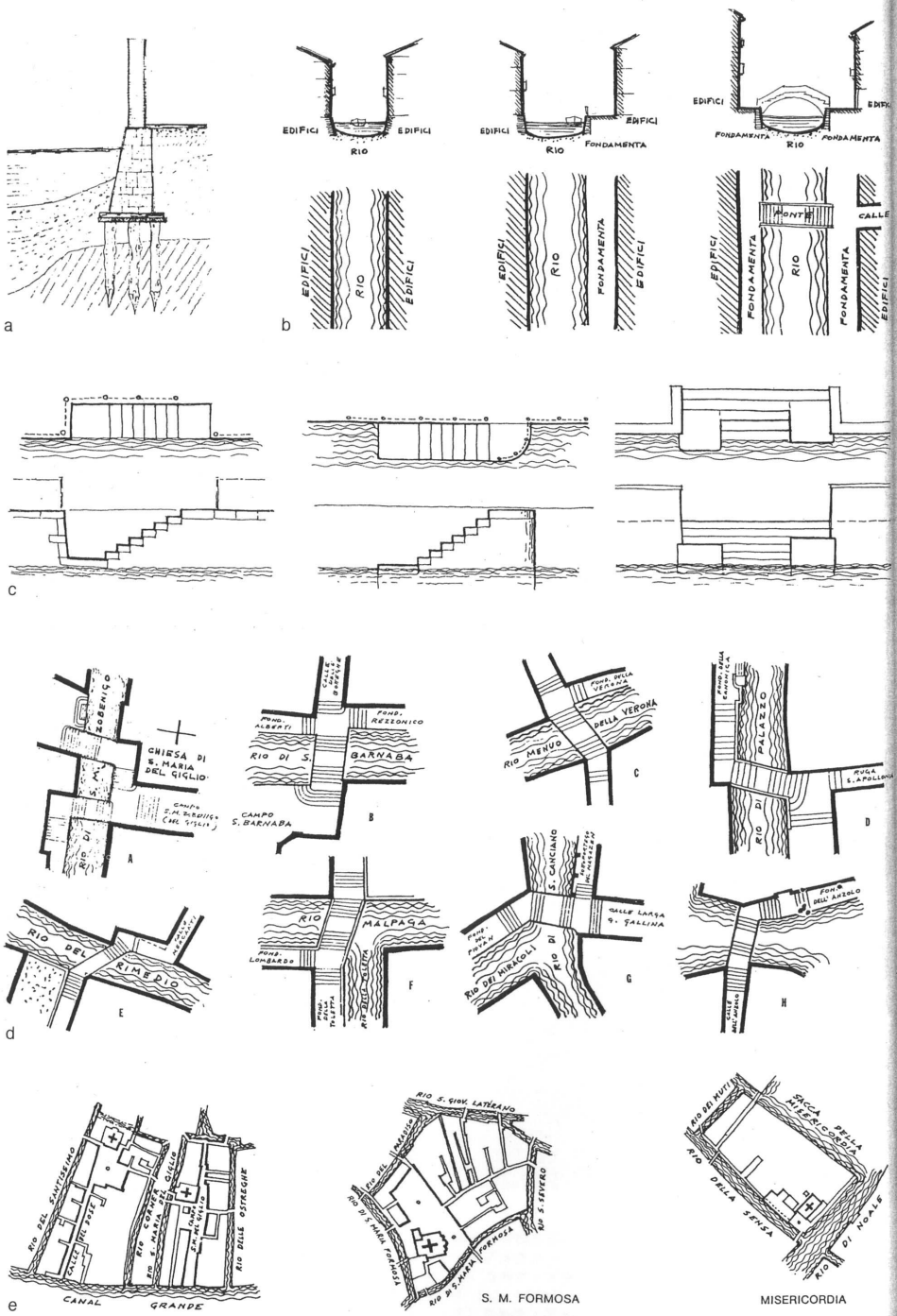
9世紀から，ラグーナにはベネディクト修道会の建築の伝統が，その経済的，社会的機構と共に打ち立てられた．マラモッコ，エラクレア，イェーゾロ，トルチェッロなどに分散していたコミュニティが，より攻撃を受けやすい居住地からリアルト島へ移転した時，この建築は，ヴェネツィアの都市を形成するもっとも重要な構成要素の一つとなった．

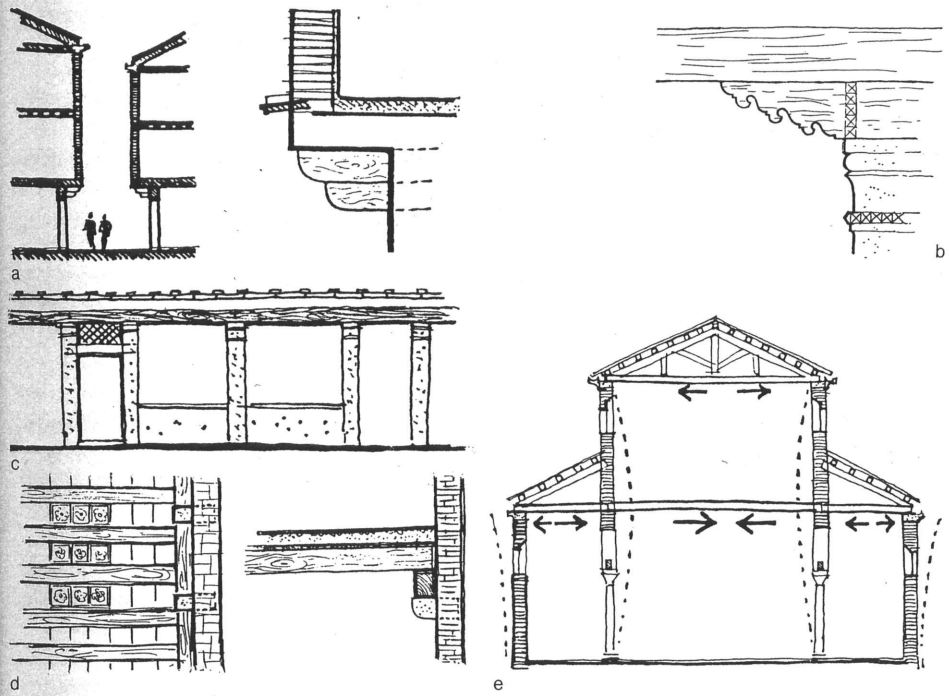
ラグーナの中心にあったリアルト群島は今日のヴェネツィアの最初の中心地であった．ブレンタ川のいくつかの支流（現在の大運河とジュデッカ運河）に囲まれて小さな島々があった．水位とほとんど同じレベルにある小さな島が，潮の干満によって絶えず水が流れる無数の小さな曲りくねった運河によって分けられていた．何世紀にもわたって他の小さい島が形成され，都市を拡大していった．しかし，すべてのヴェネツィアの建物を支えている粘土と砂の層（カラント）を基礎として使えるように，常に本来の運河の流れにしたがって都市を形成した．ヴェネツィアの景観と建築の特徴はこれらの潮流の条件に由来している．

伝統と環境の要素に加えて，ビザンチンや中東など他の文明から入ってきた様式が，ヴェネツィア建築を形成するのに役立った．十字軍，地中海沿岸諸国との交易，中央アジアそして中国までも長い旅をしたマルコ・ポーロのような商人たちなど，これらすべてが，伝統の範囲と様式を拡大し，豊富にした．このことによって，海に向いたヴェネツィアにおいては何故，ロマネスクやゴシック様式の美術や建築の影響が，13世紀から14世紀という後になって，特に修道会を通して到来したのか理解できる．16世紀まで続くこのヴェネツィア建築様式の発展の時間的ずれは，ヴェネツィア人の頑固で保守的な気質によって説明できる．資源の乏しいラグーナに住み慣れた商人や水夫たちなどは，決して浪費をしようとしなかった．遠方から苦労してヴェネツィアへ運ばれて来た森林からの木材，本土からのレンガ，イストリア海岸からの石材などの建築材料についても，もちろん無駄づかいはしなかった．

ヴェネツィアは「人工の」都市，「成熟して生まれた街」とエレナ・バッシ女史がいみじくも述べているように，建築の方法だけでなく，建設材料や建物の一部分も見捨てられたアルティーノ，トルチェッロ，イェーゾロなどの街から運ばれて来た．このようにして，壊れた昔の建物からとってこられた古い材料を何度も使用することが習慣になり，それが必要になった．アルティーノからトルチェッロ，そしてヴェネツィアへと運ばれた「アルティネッレ」と呼ばれる，小さなローマ時代のレンガがその典型を示している．これらのレンガはゴシック様式の建物を建てるためにヴェネト・ビザンチン様式の建築物から再利用され，後にはルネサンスやバロック様式の建築のためにも用いられた．ヴェネト・ビザンチン様式の壁をもち，ゴシック風の上階が加えられ，メイン・ファサードはルネサンスかバロック風に四角い大理石を張って仕上げてある世俗建築の場合も典型的である．したがってヴェネツィアの建設技術と建物の配列の基準は，都市が要求するものと環境に最も適応した経験を経て，本質的に最初から変わらず残っている．ヴェネツィアの都市の仕組みについても，街が徐々に拡大し高くなっても，初期の姿が本質的に変わることはなかったし，またそうすることも不可能だった．

ヴェネツィア建築が最も発展したのは，新しい政治的，経済的状況を迎えた15世紀から16世紀にかけてであった．ヴェネツィアに富をもたらした交易と海外植民地は，トルコの国力の脅威のもとに徐々に捨てざるをえなくなった．そこでヴェネツィア共和国の関心と進取の精神は，大陸の方へさらに向けられた．この時代には本土におけるヴェネツィア共和国の軍事的，政治的，そして特に経済的な発展が見られる．ヴェネト地方の都市や農村には，用心深く本国に戻された資本が注ぎ込まれた．





水と都市構造　この都市は，砂や水という特殊な土地の上にもっとも柔軟な方法で建設せざるを得なかった．（前ページの図を参照）

a）**土台**　海中の粘土層に打ち込まれたカラマツの杭群の上にテーブル状の板材を置く．その上に石の土台が置かれ，壁を支えている．

b）**リオ**　内部の小運河．片側または両側に「フォンダメンタ」がつく．

c）**船着き場の階段**　潮の干満のあらゆる時に対応できるように，運河に平行または直角に，張り出したり，セットバックしたり，さまざまな形状が見られる．

d）**橋**　道筋の色々な状況に対応するために，著しく複雑な平面形態をとる．

e）**都市の島**　この都市は，百を越す小さな島から成り立っている．これらの島の一つ一つに，教会と主要な建物があるカンポ（広場）があり，自立した村，教区を形成していた．これらの島の内部の道の構造は，島自体の形態や，隣接する島々との関係で非常に異なっている．

木材と建設技術　上記の図に示したように，ヴェネツィアの建築物には，軟弱な地盤を考慮して，建物をより軽く柔軟にするために，木材が常に多用された．

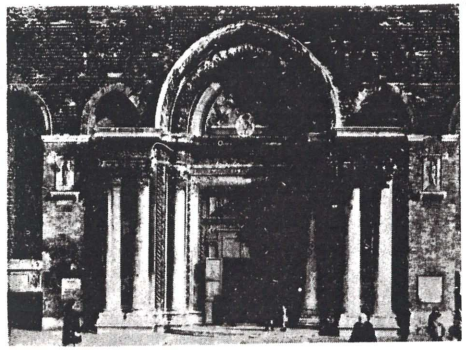
a）と b）**バルバカーニ（片持ち梁）**　一階の上に張り出してファサードを支えているか，またはアーキトレーヴの下に置かれる木材の持ち送りで，外側の木材の使用の例としては一番目立つ．ゴシック建築の中には非常に洗練された装飾が施されているものもある．

c）**木材のアーキトレーヴ**　しばしばファサードの店の入口や開口部の上に組み合わされてついている．

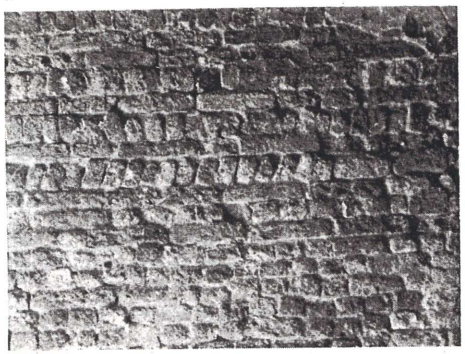
d）**天井と床**　建物内部は床板を支える梁によって構成されている．床は，“ヴェネツィア風のテラゾ”と呼ばれる，レンガの粉と大理石の砕石を混ぜた研ぎ出しモルタルの典型的な床．ヴェネツィアではヴォールト天井はまれである．

e）**教会内部の梁**　もっとも古い教会では，身廊を横断してかけられた梁は，箱の中のように建物全体を結ぶ役割をしている．この方法は明らかに造船技術から応用された．

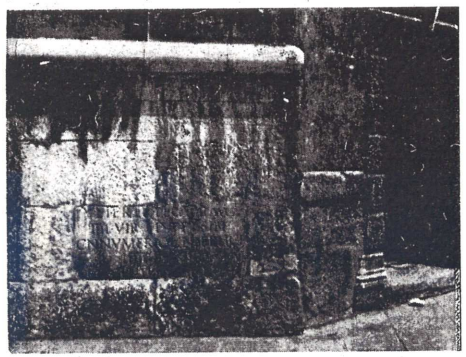
アントニオ・サルヴァドーリによるスケッチ．Civiltà di Venezia（ヴェネツィアの文明）第1巻より A. Salvadori, G. Perocco, 1973年，ヴェネツィア．



a



b



c

a）サンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ教会の入口．トルチェッロ島から運ばれたギリシャの大理石の石柱
b）ヴェネト・ビザンチン様式の住宅の壁（コルテ・デル・レメール）．アルティーノに由来するローマ時代のレンガ（5×10×20c m），「アルティネッレ」によって形成された．
c）サン・ヴィダル教会の古い鐘楼の基礎に用いられている，ローマ時代の銘が刻まれた石

第一の現象は都市における建築の発展と変化であり，強いリズムとよりモニュメンタルで目立つ建築が登場した．

第二の現象は，アルプス以北も含む他の地方から，芸術家，職人たちがヴェネツィアにやってきたことである．その中には建築家や石工がたくさんいた．その結果，それまでは考えられなかった新しいアイデアや国際的な文化的革新などがもたらされた．これらの建設活動に関連した芸術家と建築家は，ヴェネト地方からだけでなくトスカーナ地方や特にロンバルディア地方，主にルガーノ，コモ，ベルガモなどから，一家がグループとして（レヴェーティ家，ロンバルド家，ファントーニ家，ブレーニョ家，コドゥッチ家，リッツォ家，ブオーラ家，ボン家，デイ・グリージ家，スカルパニーノ家，コンティーニ家など）まとまって流入した．

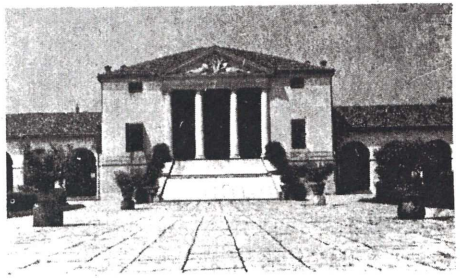
第三の現象は，ヴェネツィア人の組織と建設に関する能力が，広大な農地に移されたことである．このことは急速に数多く建設されたヴェネト地方のヴィッラに表われている．ヴェネツィアの家が私邸であると同時に商業上のヘッドオフィスであったように，ヴェネト地方のヴィッラはヴァカンス用であると同時に，農場の中心地であった．中央部分はヴェネツィアの住宅の3列構成を継承しており，両側にポルティコがついた，バルケッサと呼ばれる低い翼部がつき，そこに農場の施設が置かれた．ヴェネツィアの住宅と同様，ヴェネト地方のヴィッラでは奉公人も使用人も農夫も共に，家父長制のもと温和な共同生活を送っていた．

この当時にヴェネツィアでつくられた様々な建築の中には，住宅や商館などのように私的な性格のもの，そして行政館から牢獄まで，あるいはパラッツォ・デイ・カメルレンギからリアルトの役所までの公的な性格をもつ世俗建築，教会，修道院など宗教的な建築があった．これに加えて，ヴェネツィアには半分世俗的で宗教的，半分公共的で，半分私的な性格をもつ特殊な建築がつくられた．これらが「スクオーラ」と呼ばれる一種のギルドホールである．スクオーラは社会福祉の機能を果たす宗教的な同業組合，またはヴェネツィアで働いていた多数の外国人社会のための協会であり，「信仰（献身）」のスクオーラと「技術と職人芸」のためのスクオーラに分かれていた．例えば「スクオーラ・ディ・サン・マルコ」，「スクオーラ・ディ・サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ」「スクオーラ・ディ・サン・ロッコ」などの宗教的なスクオーラと，「毛織物職人のためのスクオーラ」，「金箔師のためのスクオーラ」，「射手のためのスクオーラ」などの職人組合があった．スクオーラのまわりに集まった信心会はたいへん数が多く（18世紀には職人のために150と，献身のために275の計425ものスクオーラがあった．）これらの組織はしばしば社会的にも大変重要で経済力もあり，その会館は6つの「スクオーレ・グランデ（大スクオーラ）」（スクオーラ・デッラ・カリタ，スクオーラ・ディ・サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ，スクオーラ・ディ・サン・マルコ，スクオーラ・ディ・サン・ロッコ，スクオーラ・デッラ・ミゼリコルディア，スクオーラ・ディ・サン・テオドーロ，そして後にスクオーラ・デイ・カルミニが加わる）のように内部に貴重な作品が飾られた，建築的にたいへん価値がありモニュメンタルな性格をもった建物であった．大小の規模の違いはあっても，スクオーラの構成は共通している．2階建てで，各階にホールと横の部屋があり，大階段でつながっていた．今日，これらのスクオーラは，協会およびヴェネツィア市民の自主運営能力と総ての芸術に対する市民の特別な愛好心の自然な表現として残っている．

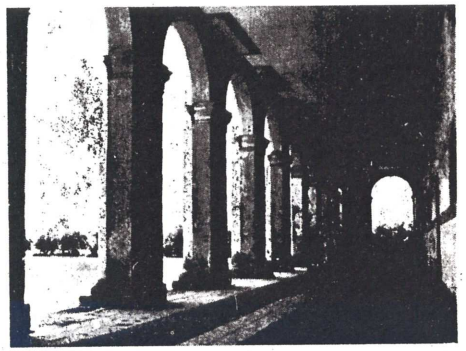
ヴェネツィア建築を見るとき忘れられないのが，典型的な実用的建築であり，ドイツ人商館やトルコ人商館などのような「フォンテゴ，すなわち商館」や，大運河沿いの「粟」用，ザッテレの「塩」用，ジュデッカやスキアヴォーニ岸の「穀物」用などまさに食料専用の貯蔵庫としての「倉庫」があった．しかし実用的建築のより重要な複合体はアルセナーレ（海軍工廠）であり，建築的に見ても非常に興味深い．アルセナーレは何世紀にもわたり幾度も拡大され改築されて，ヴェネツィア共和国の海軍の心臓部となっていた．用心深く城壁と塔に守られ，街から隔絶していたアルセナーレは，様々な大きさの水辺の空間の中にドックが分割され，街の中の街のように，独立した都市単位を構成していた．中世都市の城砦とヴェネツィアのアルセナーレの違いは，アルセナーレは都市とその領主を守る要塞ではなく大きな造船所であり，この時代には共和国の権力と富の源であった船を建造する施設であったことである．

様々な性質や用途をもつ建物は，ヴェネツィアでは水側と陸側からの2重の交通網からアプローチされた．この二つの交通路が交差する所は，ヴェネツィアの典型的な建造物，橋によって象徴されている．ヴェネツィアの橋にもまた各々の歴史や，様々な様式の発展があり，目をひく建築的にも価値のある例が見られる．4つ足の動物（馬）を通行させるために階段状の橋に付け加えられたスロープの橋や，トルチェッロ島の橋のように18世紀まで多く残っていた手すりのないものから，バラスター（小柱）や低い壁あるいは横木のついた手すりのある橋に変化した．レンガ造りのプリミティブな構造のアーチをもつ橋から，サン・ジオッベのティラーリ橋のように3つのアーチをもつイストリア石の橋に変わった．ある橋はアーチの部分だけに石が使用されたが，他の橋はパリア橋のように全体が石造りであった．橋は，ちょうどリアルト橋のように町並みにとってモニュメンタルな要素になりうる．19世紀には鉄の橋がヴェネツィアにあらわれ，見た目に非常に軽いこの材質が，街によく調和している．数多いこのタイプの美しい橋の中では，カステッロ地区のサン・ピエトロ教会の前の橋がよい例を示

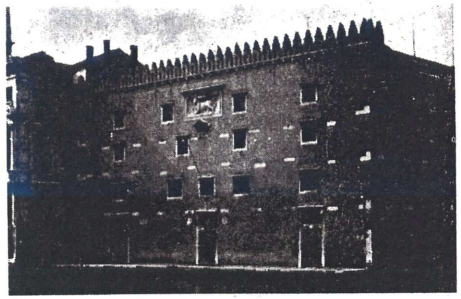
a



b



c



d

a）ヴィチェンツァ．ヴィッラ・ロトンダ，パラーディオ，1551年
b）ファンゾロ（トレヴィーゾ）．ヴィッラ・エーモ，パラーディオ，1560年
c）バルコン（トレヴィーゾ）．マッサーリによるヴィッラ・ポーラのバルケッサ，18世紀，いまだ農業用に使用されている．
d）大運河の穀物倉庫，15世紀

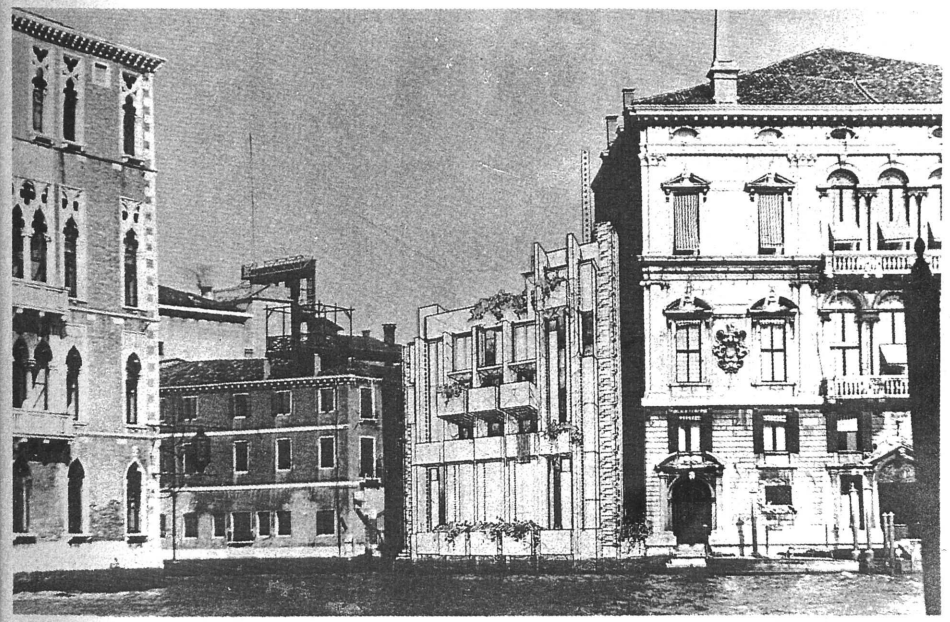
している．

ヴェネツィアの都市計画は，数多くの複合的な空間や構造のタイプを示している．このことは特徴ある名称によって明白である．両側に建物だけが並び，しばしば曲がりくねっている「リオ」(小運河) は，だんだん片側または両側に「フォンダメンタ」(岸の道) がつくようになる．その岸に面して大小の家々が建ち，フォンダメンタは唯一の交通手段となった．「カッレ」と呼ばれる歩行者専用の細い道は，店舗を伴った「カッレ・ラルガ」(広い小道)，舗装された「サリッザーダ」(背骨の意味) や「ルーガ」になり，後者2つは普段たいへん賑わった商業地区であった．「カッレ」と「フォンダメンタ」と「カンポ」を結ぶものとして，しばしば「ソットポルテゴ」と呼ばれる，中世の魅力に満ちた，建物自体に空けられた狭いトンネルがある．ソットポルテゴは歩行者用の巧妙につくられた道路で，大変経済的で機能的な都市計画的解決を可能にしている．これの適用は，公的な必要が生じた時に，私的所有権を制限するという考え方にもとづいてはじめて可能であった．

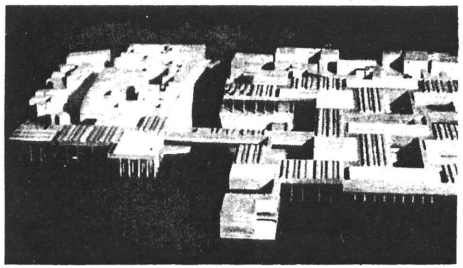
地区の「市場」は，ヴェネツィアの「カンポ」と呼ばれる広場に置かれている．カンポのまわりには必ず重要な建物と教会が建っている．これらのカンポは自立した市民の中心的核を成し，常に運河に通じている．大きさも様々で，一番大きなカンポ・サン・ポーロやカンポ・サンタ・マリア・フォルモーザのような広場は，「闘牛」などの庶民の祭りにも使用された．住宅地区の小広場は「カンピエッロ」，「コルテ」と呼ばれ，共同の日常生活の主役であり中心である．これらの都市空間のまわりには，庶民住宅やより高級な家，小パラッツォなどで構成された複合的な建物と，一種の市民の共同生活に必要な公的建物が複雑に入り組んで建っている．したがってヴェネツィアの都市風景の中では，ひかえめな建築（「ヴェネツィア・ミノーレ」とエグレ・トリンカナート女史の優れた研究でいわれている）は，より評判の高い，モニュメンタルな建築と区別することはできないし，都市の魅力を歪めるものではまったくない．

ヴェネツィアの建築の歴史においては，文化や過去のものへの敬意というより，商人の思慮深さから，保全されていた質の良いものや役立つものを無駄遣いしないよう考慮しながら，共和国終焉の日まで数多くの改築，増築，再建が繰り返された．"Che el sia fato che el staga ben"（見た目を良く仕上げること）というのが，新しい建物をつくる上での認可の原則であった．このような方法だったので，ヴェネツィアの建築は，それ自身，ルネサンス，バロック，ロココ，新古典主義などの様式の改革によって打撃をうけることもなく，その本質を変えることなくきりぬけることができた．このことは，街の建築の大きく異なる様式や趣味を，同化させ，変形させ，ほとんど浸してしまう並外れた能力を示している．構造的にあまりに目立ち，強すぎるものはどんなものであれ，光，明暗法，色によって消してしまうこの悪魔のような能力は，ヴェネツィアの伝統の真の連続性である．

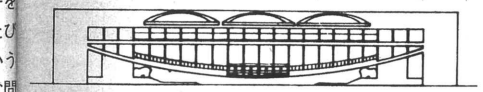
ヴェネツィア建築の外観は，19世紀に加えられた適切とはいえない改造があったとはいえ，我々の時代まで事実上手つかずに残ってきた．近代建築がこの古い組織の中に入り込もうと試みたが，いくつかの孤立したケースを除いて，かえってがっかりさせるものの方が多い．それに引き換え，3人の最も有名な近代建築家が，ヴェネツィアの新らしい建物の3つの興味深いプロジェクトに熱意を持って参加したことは非常に意味深いことである．フランク・ロイド・ライトは大運河（カナル・グランデ）沿いのパラッツォ・マジエリのためにデザインしたし（残念ながらこれは建設されなかったが），ル・コルビュジエはサン・ジオッベの新病院，ルイス・カーンはジャルディーノのビエンナーレ会場の会議場を設計した．これらのプロジェクトはそれぞれ重要度や性質が異なりながらも，少なくとも常に建築的，都市的問題が国際文化の興味を集めるヴェネツィアのバイタリティーを示す．また，ヴェネツィアの建築の長い歴史の中でたびたびそうであったように，狭い地域の市民の問題というよりもっと幅広いアイデアや個性の中で，このような問題を，容易ではないが，どのように解決したらよいか示唆している．



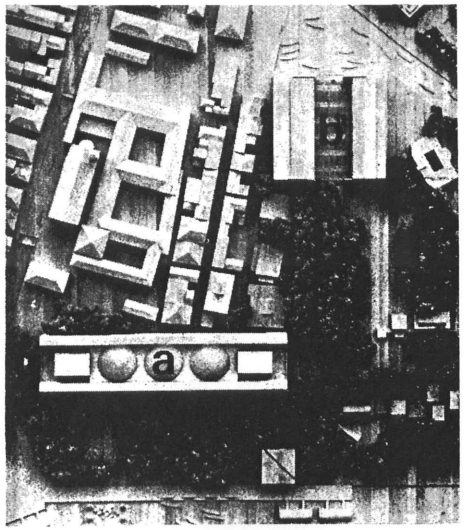
a



b

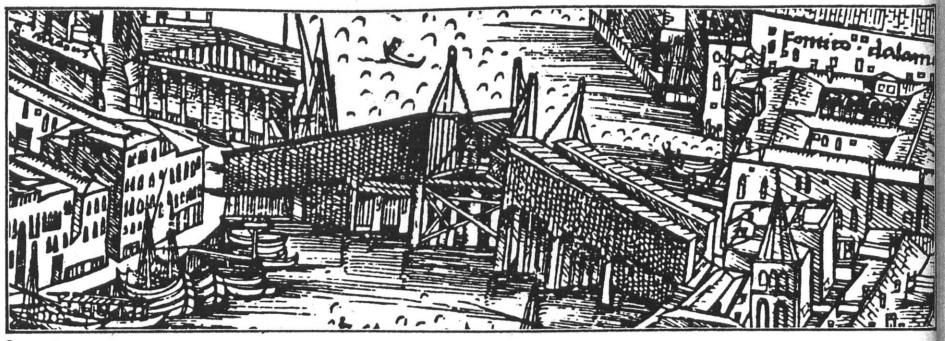


c

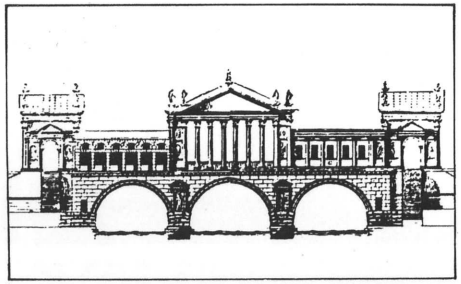


d

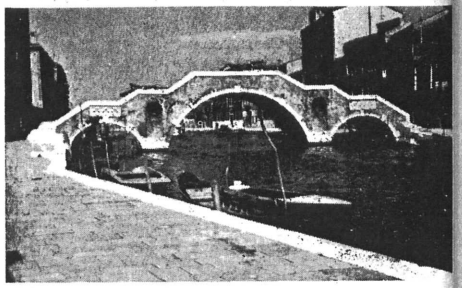
a）大運河のカ・フォスカリとパラッツォ・バルビの間のマジエリ財団の設計案．フランク・ロイド・ライト，1953年
b）サン・ジオッベの新市民病院の設計案．ル・コルビュジエ，1965年
c／d）ビエンナーレ会場の会議場の設計案．ルイス・カーン，1969年



a

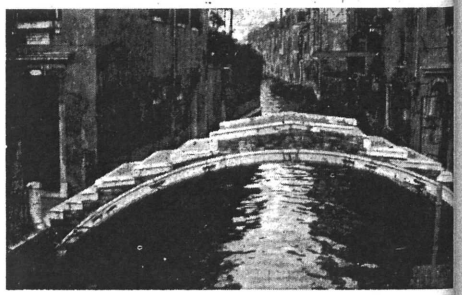


b

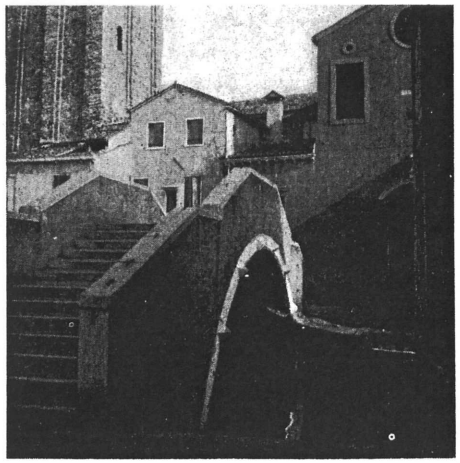


c

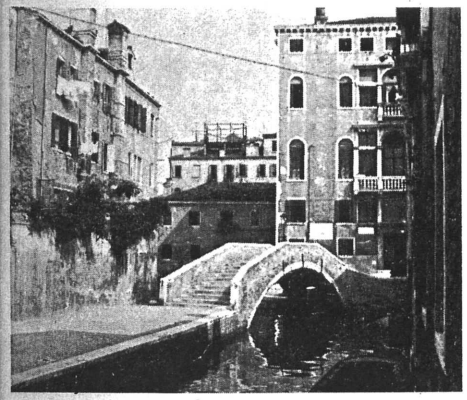
d

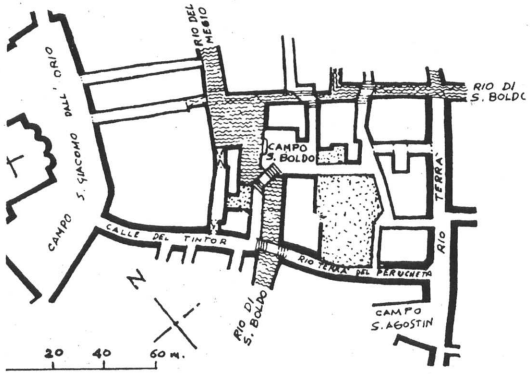


e



a）ヤコポ・デ・バルバリの鳥瞰図にあるリアルト橋，1500年
b）リアルト橋のためのパラーディオの設計案
c）カンナレージョ運河のトレ・アルキ橋．ティラーリ，1688年
d）19世紀の鉄橋．サン・ピエトロ・ディ・カステッロ
e）サン・フェリーチェ運河の欄干のない橋
f）サン・ジャコモ・ダローリオの橋





都市の景観

ヴェネツィアの個々の建物の説明の中で，各建物がなんらかのかたちで関係している都市環境にしばしば触れないわけにはいかない．事実，ヴェネツィアのそれぞれの建築は，それが一部分となった都市のコンテクストを解かなければ完全には理解し得ない．しかしヴェネツィアには，建築的重要性をもつ建物がなくとも，もっと広く違った形で建築または都市の複合物としての性格を示し，特に造形的，空間的視点から成功している環境上の面白い例が数多くがある．これらの中で，様々な建築的，空間的要素がもっとも自然な方法で組み合わさっている，都市的，景観的構成の小さな傑作ともいえる例がサン・ボルド広場である．

サン・ボルド広場　水路と歩道が出会い，交差し，機能的な交換が行われる典型的なヴェネツィアの環境がこれであり，運河に通じているすべてのヴェネツィアの広場（カンポ）とも共通している．運搬の中心としての都市の機能が明白で，ここから，サン・ジャコモ・ダローリオ広場，カッレ・デル・ティントール，リオ・テッラ・デッラ・パルッケッタ，そしてサンタゴスティン地区のような重要な商業地区へ通じる道が広がっている．ヴェネツィアには他にも同様の機能を持つ結節点はあるが，サン・ボルド広場の場合はここで分かれる水路と陸路が同じように拡大し，広場と運河がほぼ同じ大きさである．2つのどちらか一方が目だって優位にたつことはない．空間と建造物が一体となって主役になっている橋は，陸と水の交通をよりスムースに繋ぐためにあることは明白である．空間的な構成はここでは特に（いわば奇跡的に），塀の後ろに隠された木の植わった庭によって豊かになる．

ガイドブック

HONOUR H., *The Companion Guide to Venice*, Collins, London 1965.
LORENZETTI G., *Venezia e il suo Estuario*, Lint, Trieste 1974 (English Edition).
PIAMONTE G., *Venezia vista dall'acqua*, Stamperia di Venezia 1966.
SALVADORI R., *Venise*, Arthaud, Paris 1987.
TRINCANATO R., *Guide to Venetian Domestic Architecture*, Canal, Venezia, 1978.

建築書

ACKERMAN J. S,. *Palladio*, Penguin Books, 1966.
ARSLAN E., *Venezia Gotica*, Electa, Milano 1970.
BASSI E., *Architettura del Sei e Settecento a Venezia*, E.S.I., Napoli 1962.
CONSTANT C., *The Palladio Guide*, Butterworth Architecture, London 1987.
DAL CO F., and MAZZARIOL G., *Carlo Scarpa: The complete works*, Butterworth Architecture, London 1986.
DEMUS O., *The Church of St. Mark*, Harvard University 1960.
HASKELL F., *Patrons and Painters*, Chatto & Windus, London 1963.
MARCIANÒ A. F., *Carlo Scarpa*, Zanichelli, Bologna 1984.
MARETTO P., *Edilizia Gotica Veneziana*, I.P.S. 1960.
McANDREW J., *Venetian Architecture of the Early Renaissance*, MIT Press 1980.
MURATORI S., *Studi per una operante storia urbana di Venezia*, I.P.S. 1959.
MURPHY R., *Carlo Scarpa and the Castelvecchio*, Butterworth Architecture, London 1990.
RUSKIN J., *The Stones of Venice*, 1851.
TRINCANATO R., *Venezia Minore*, Ed. de Milione, Milano 1948.
WITTKOWER R., *Art and Architecture in Italy 1600-1750, Pelican History of Art*, 1958.

歴史・美術史

BERENGO M., *La Società Veneta alla fine del Settecento*, Firenze 1955.
BRAUNSTEIN P. - DELORT R., *Portrait Historique d'une Cité*, Paris 1971.
CESSI R., *Storia di Venezia*, Centro Arti e Costume, Venezia.
COZZI C. - KNAPTON, M., *La Repubblica a Venezia nell'Età Moderna*. UTET Torino, 1986.
KNAPTON M., a cura di, *Venezia Tardomedievale*, Canal, 1989.
LANE F., *Venice, A Maritime Republic*, John Hopkins Univ. Press 1973.
LUZZATO L., *Storia Economica di Venezia*, Centro Arti e Costume, Venezia.
MORRIS J., *Venice*, Faber & Faber, London 1960.
PEROCCO G. - SALVADORI A., *Civiltà di Venezia*, 3 vol., Stamperia di Venezia, 1973-76.
SALVADORI R., *Duemila anni di scultura a Venezia*, Canal, 1986.
STEER J., *A Concise History of Venetian Painting*, Thames and Hudson, London 1970.
THIRIET F., *Histoire de Venise*, P.U.F., Paris 1971.